JESC プレゼンテーション 2014

ハイスクールクワイヤープロジェクト
障がい者施設でのイベント企画について

私たちは OSM 高等専修学校のヴォーカルコースで学んでいて、その中のプロジェクトの１つである「ハイスクールクワイヤープロジェクト」を履修しています。

この授業で行った「障がい者支援施設でのステージ企画」について報告いたします。

「ハイスクールクワイヤープロジェクト」の目標は、歌やパフォーマンスを学び、楽しさや喜びを届けるためにステージを行うことです。
メンバーの中には、中学校までの間、学校に通うことが重荷と感じていたり、他者に認められたことがなかったり、夢の語り方がわからなかった生徒が多く、音楽に励まされた経験を持っている仲間ばかりでした。

そこで私たちは、より具体的に目標を達成させるために、「障がい者支援施設で自分たちの歌を届けるステージ」を企画しました。
そして、その目的は「音楽を通して、一緒に楽しい時間を過ごし、ひとりでも多くの方に癒しや喜びを届け、私たちの力で社会に貢献すること」です。

施設は担任の先生の力をお借りして、大阪府交野市の「てらサポートセンター」となりました。

本番までの流れを説明します。

まず、「てらサポートセンター」のことを調べました。そして、施設訪問ワークシートを作り、現地に行き、調査しました。

「てらサポートセンター」とは、障がい者の方々の生きがいを創造する場、心の支えとなるような施設を目指し、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する施設です。日常生活の支援や、余暇活動の支援、健康管理などを行っています。

年齢層は１８歳～４０歳。明るい曲が好きな方が多く、みなさん音楽が好きとのことでした。

そして、施設見学レポートを完成させ、メンバーに報告しました。
障害者の方も仕事をしたり、選挙権も持っているということ。
障害があっても感動や喜び、苦しみが私たちと同じであるということ。

そして、２月６日に本番実施を行いました。その様子をご覧下さい。

《映像１分》

（映像 30 秒頃より・・・）
施設の方々は手をたたいたり、体を揺らしながらとても楽しんでくれている様子でした。
中には、涙を流している方もいました。
同じ時間、同じ場所で、音楽を通して心の距離を縮められたことに対し、
私たちもとても感動し、もっと活動の場を広げたいと思いました。

次回は 3 月 14 日　交野自立センターでステージを成功させます。

音楽は会話を超えたコミュニケーション力があると感じました。
もっと音楽を学ぶため、大阪スクールオブミュージック専門学校に進学し、
歌う喜びをたくさんの人に伝えられるヴォーカルインストラクターになる
という夢を達成したいと思います。

ありがとうございました。